

Quark**XPress** BASIC

Contents

1. QuarkXPress の概要

1. QuarkXPress の特徴	1
2. QuarkXPress のアイテム	4

2. QuarkXPress の基本操作

1. QuarkXPress の環境設定	5
2. QuarkXPress の画面操作の基本	7
3. プロジェクトの設定とレイアウトの作成	10

3. QuarkXPress でのレイアウト作業の実際

1. フライヤーの作成と印刷	24
2. PDF ファイルの作成	45
3. 出力ファイルの収集	47

1

QuarkXPress の概要

1. QuarkXPress の特徴

Quark 社の QuarkXPress は、ページレイアウト用のアプリケーション・ソフトウェアの1つで、1990年代後半、DTP環境の発展の原動力ともなったソフトウェアです。パソコンの画面上で自由に文章、写真、イラストなどのレイアウトを行うことができ、複雑なレイアウトを行う場合や、ページ数の多い印刷物を作成する場合でも、充実した機能により効率良く作業ができるため、多くの支持を得、シェアを確実に広げてきました。

QuarkXPressの日本語版は、Mac OS 9環境下で最も普及したバージョン3 (3.31)、バージョン4 (4.10)を経て、バージョン6 (6.51)が、Mac OS X / Windows XPに対応したバージョンとして販売され、ダイナミックダウンロードへの対応など、多くの機能が追加されました。

2008年には、インターフェイスに改良を加え、日本語組版機能も強化され、IllustratorやPhotoshopのネイティブファイルの直接取り込み、透明やドロップシャドウなどの多くの機能が追加されたバージョン8 (8.02)が発売開始となりました。



ダイナミックダウンロード

ダイナミックダウンロードに対応していれば、プリンタ（出力機）側に、和文フォントのアウトライン情報をソフト側から送ることができます。非対応のバージョンの場合は、事前にプリンタ（出力機）側に別途「プリンタフォント」を搭載（ダウンロード）する必要があります。

ネイティブファイル

以前のバージョンでは、画像の保存形式をTIFFやEPSなどにする必要がありました。バージョン6で、Photoshop形式のファイルを、バージョン8では、Illustrator形式のファイルをそのまま配置できるようになりました。それぞれのアプリケーションでのファイル形式で保存されたファイルを、ネイティブファイルといいます。

優れた組版機能

画面上でレイアウトされる各要素（テキスト・写真・イラスト）は正確な座標をもつボックスで配置されます。複数設定可能なマスターページの機能により、定型フォーマットの組版にもとても適しています。ボックスを回転させたり、不定形のボックスも作成することができ、自由なレイアウト作業が可能です。

テキストのハンドリング

スタイルシート、検索・置換、縦組み／横組みの処理や、文字のカーニング／トラッキングなどの柔軟な設定ができ、ルビふりなどの日本語独特の組版作業にも適しています。段落の先頭の文字にアクセントをつける“ドロップキャップス”や、画像をテキストへチェーンする“アンカーボックス”など、たいへん多くの機能を備えており、大量のテキストを非常に効率よく処理することができます。

ハイエンド出力

早い時期からポストスクリプト環境での4色分解出力や、高解像度のTIFF画像のコントロール機能などを備え、プロフェッショナルな現場での使用に耐えうる、信用度の高いソフトウェアです。

エクステンション (XTension)

オリジナルのプログラムではカバーできない機能については、エクステンション (XTension) という拡張機能をつかさどるプログラムを組み込むことが可能です。イージーコンポなど、サード・パーティ製のエクステンション・プログラムがいくつも市販されており、それらを使用することによって作業環境をより効率よく構築することができます。また、業務に合わせた開発も可能です。

イージーコンポ X 2.0

バージョン3の頃から使用者が多いエクステンションです。ショートカットによるカーニング機能の他、テキスト取り込み、テキスト変換、グループスタイルシート、検索後属性の一括適用機能などテキスト処理の効率を大幅にアップします。
※ Windows 版はありません。

アクティベーション

QuarkXPressは、バージョン6以降、ライセンスの認証方式が「アクティベーション方式」に変わりました。以前のバージョンでは、1つのパッケージにつき1つのハードウェア・プロテクト・キー（ dongle ）が同梱されていて、これを装着していないPCではQuarkXPressを起動することができないというプロテクトがかけられています。

バージョン 3.3 と 4.1、そして 6.51 と 8.02

現在市販されている日本語版の QuarkXPress は、バージョン 8 と 6.51 です。実際の現場では、まだそれ以前のバージョン 3.31 や 4.1 (r2) が、メーカーでのサポートがすでに終了しているにもかかわらず、使用されているケースが多く見られます。バージョン 4.1 ではバージョン 3.3 で作成したドキュメントを開くことができ、バージョン 3.3 の形式で保存もできます。また、バージョン 6.51 では、バージョン 4.1 のデータを開くことができ、バージョン 4.1 の形式で保存ができるように、バージョン 8.02 では、バージョン 6.51 のデータを開くことができ、バージョン 6.51 の形式で保存ができるように。

バージョンを以前のものに落として保存する場合には、新しく追加された機能を使用している部分等でデータが正しく再現されない場合がありますので、十分な注意が必要です。

プロジェクトとレイアウト

バージョン 6 以降は、QuarkXPress で作成した書類のことを**プロジェクト**と呼びます。サイズの違う**印刷用レイアウト**や**WEB 用レイアウト**など、複数のレイアウトを 1 つの**プロジェクト**として管理できるようになりました。コンテンツ（内容）を共有でき、その同期も可能なので、**ワンソース・マルチユース**（ひとつの情報を複数の用途に活用すること）が可能です。

4 以前のバージョンでは、1 つの書類 = 1 つのレイアウトとなっていて、**ドキュメント**と呼ばれます。

バージョン 5 ? 7 ?

QuarkXPress の日本語版は、バージョン 3.31 → 4.10 → 6.51 → 8.02 が使用されているバージョンです。英語版にバージョン 5 や 7 はありましたが、日本語版にはありません。

市販の QuarkXPress の価格

バージョン 4 が 2006 年 8 月当時では 282,450 円という価格でした。現在（2009 年 2 月）、バージョン 8 の定価は、97,650 円です。